

春に寄せて

浪江町長 馬場 有

今年も浪江では紅房桜が花を咲かせ、リバーラインの染井吉野が満開となり、春がやってきました。この5月号がお手元に届くころには、新緑の季節となっているでしょう。

この時期になると、大堀相馬焼の大せとまつり、新町通りの種苗市などを思い出します。いずれも町内外から大勢のお客様で賑わったものです。室原では山菜市もありました。タラの芽の天ぷらを塩でいただく。待ち遠しい春の味覚でした。紅葉で有名な高瀬川渓谷は新緑の頃もたいへん美しく、うぐいすの声は街場にも響いていたのが懐かしく思い出されます。

町は、来年春の避難指示解除を目標としています。その目標どおりに解除できるかどうか、残念ながらも判断することはできません。先般、有識者の方々による検証結果を報告書にまとめたいただきました。その中には、解除するために必要な4つの大きな分野（除染、インフラ復旧、生活基盤の整備、放射線モニタリング体制の構築）が挙げられています。今後これらの進捗を見ながら、そして懇談会などを通じて町民の皆さんと意見交換しながら、解除の時期について考えてまいります。そして、帰還困難区域についても粘りづよく除染を求め、復興の拠点をつくり、ふるさとの再生を目指してまいります。

避難生活が長期化する中で、町民の皆さんにはいろいろなご意見があることと思います。すぐに帰りたい方、さまざまな事情で相当期間は帰れないという方。放射線や原発

のリスクについても様々な捉え方があります。そのすべてを尊重しながら、町として決断をしていくのは簡単なことではありません。が、私が平素から心がけている3つの原則があります。物事は短期的でなく、長期的に見ること。枝葉末節にとらわれず、本質を見ること。そして、単一的でなく、多面的に見ることです。これからの課題に臨むにあたっては、常に本質を見極め、判断をしてみたいと思います。

この3つは東洋思考の原則でもありますが、個人的には近ごろ、禅の言葉が心に響くことが多いと感じます。年齢のせいでしょうか。私たちは自然の中で生かされているという感覚です。「無常」とは、何事も日々刻々と変化しているということなのです。変化しながら続いていくのです。桜は一度に咲いてパツと散る。儂いものですが、来年春が巡ってくれば、また美しい花を咲かせる。これも自然の摂理です。

浪江の春の風物詩―種苗市も山菜市も大せとまつりも、復活までには長い時間を要するかもしれません。しかし、皆さんとともに復興という春を迎える日を目指し、新年度にあたって職員一同、私を捨て公のために命をかけてこの難局を乗り切る覚悟を新たにしたいところです。

季節の変わり目にあたり、皆さまくれぐれもお身体ご自愛なされ、健やかな日々を過ごされますようご祈念申し上げます。